

県外派遣報告書

審判員名	廣戸 理子	所属	U15
大会名	第55回全国中学校バスケットボール大会(鹿児島県)		
期 間	令和7年8月22日(金)～8月24日(日)		
会 場	サンアリーナせんだい、西原商会アリーナ		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
8月12日(火)	審判会議・研修会	zoom会議	
8月22日(金)	予選リーグ	サンアリーナせんだい	
8月23日(土)	決勝トーナメント	サンアリーナせんだい	
8月24日(日)	準決勝、決勝	サンアリーナせんだい	
会議 講義 内容			
主催者挨拶 JBA審判委員長 前田 喜庸氏			
歓迎の挨拶 鹿児島県協会会長 鮫島 俊秀氏 鹿児島県審判長 原田 拓朗氏 鹿児島県U15審判長 川井 剛氏			
JBA本部派遣審判員(講師)紹介/研修の流れ/大会に向けて 全中担当 東京都 加藤 暁生氏			
【研修1】 U15全国大会における過去のトラブル共有 東京都 加藤 暁生氏			
【研修2】 全中大会を想定したPGC(ブレイクルームにて) 宮城県 野崎 梨奈氏			
『ゲームをスムーズに始めて進め、終わらせる』			
①ゲームコントロール			
・ゲームを審判がリードする タイムアウトの再開、TO管理(マジックタイム)、スピードアジャスター			
・コミュニケーション 対コーチ/対プレイヤー(両チームに同じバランスで)、声を使って進める。			
・怪我人対応 - その場に近いレフリーが対応 - 大きな怪我の場合、ベンチにコートに入っても良いということを分かりやすくジェスチャーする。 - 再開方法の確認			
②メカニクス			
・ボールサイド2 シンプルにローテーション Good call/Good no callのために。			
・ヘルプディフェンス 機会が少ないからこそクレーワークを大切に。リードがイニシアチブをもって			
・3or2の確認 リードが見るものを顔と体の向きでしっかりと示す。			

- ・微妙なケースほどプライマリを信頼
コンタクト、バイオレーション、OOB
- ・見えないもの(確認できないもの)を吹かない勇氣

③プレーコーリング

- ・ラフではなくタフなバスケットをさせる
プレーの分析、クイックにならずペイシエントホイッスルの意識
- ・明らかなものをシンプルに判定(Call the Obvious)、テンポセットに繋げる。
-トラベリング、スクリーン、インパクトのあるもの
-手の使い方(叩く・掴むはシンプルに)
-インサイドやミスマッチ、3秒
- ・イミディエイトホイッスルで吹くもの
タクティカルファウル、やり返しに繋がりそうなもの、粗暴なプレー
- ・ペイントクリア
3秒、リバウンド

④クルーワーク

- ・表示されるもの
マジックタイム(クルーで意識、TOに近い人が対応できるとより良い)
-FTバイオレーション
-スローインが不当に行われた時(キックボール等)
-ショットクロック(リングへの接触、投げ入れ等)
-チームファウル(ボーナスシグナル)
- ・FTシューター
- ・アイコンタクトと、情報共有
- ・スピードアジャスター

【研修3】 U15カテゴリーを担当する上での留意点 東京都 東條 輝正氏

マンツーマンルール/インテグリティ/TOコントロール

特にTOは中学生が担当する。TOミスが目立たないように、修正の仕方を工夫し、レフリーとTO全員でゲームを進めていく。

実技

	期 日	8月22日(金)		男子 (女子)	予選Jリーグ		
担当試合	対戦カード	五橋(宮城県)	VS	丸亀西(香川県)	CC	U1	(U2)
	相手審判	CC:川井 剛氏(鹿児島県) U1:池ノ上 修氏(鹿児島県)					
ミーティング内容				主任	宮内 遥氏(愛知県)		

PGCでは、中心となりそうな選手の情報共有を行ないながら、手の使い方の整理、プライマリやメカニクスの確認を行なった。また、クルー同士のアイコンタクトを大切にしながら自信をもって判定していこうと確認し、ゲームに臨んだ。

ゲーム後の反省では、ベンチからのアピールにレフリーがどうコミュニケーションを取っていくかについて話があった。現象が明らかなものではなく、自分の目の前でNo callと判定したものに対してベンチからの大きなアピールにもっと「強さ」が必要であった。「強さ」=処置を下すことだけではないが、毅然とした態度でコーチとコミュニケーションを取ることで、ベンチやプレイヤーだけではなくゲームを観ている観客に対してのレフリーの立ち振る舞いや見られ方が変わってくる。また、予選リーグの最終戦ということもあり、結果によってはこのゲームで引退というチームもある。その中でどうこのゲームを終わらせるのかというゲームフローについての話もあった。

個人としては、クルーとのアイコンタクトもあり、落ち着いてコートに立つことができた。そして、自分のプライマリを責任をもって判定することができた。しかし、目の前のプレーを判定することだけに精一杯になってしまい、ベンチとのコミュニケーションやゲームフロー(コーチやプレイヤーの想いや背景等)を感じ取るなどのゲームコントロールについてはまだまだ力不足であると実感した。

	期 日	8月23日(土)		男子 (女子)	決勝トーナメント		
担当試合	対戦カード	竜操(岡山県)	VS	菊陵(福岡県)	CC	U1	(U2)
	相手審判	CC: 寺島 慶子氏(石川県) U1: 原田 香菜子氏(和歌山県)					
ミーティング内容				主任	若林 謙作氏(栃木県)		
PGCでは、中心となりそうな選手の情報交換、チームのプレイスタイルなどを共有しながら、タフなバスケットを目指すことを確認した。また、TOとのコミュニケーションを大切にしながらスムーズにゲームを進めていこうと話をして、ゲームに臨んだ。 ゲーム後の反省では、お互いにタフにバスケットをしてくるチームだからこそ、POCへのこだわりをもつことが大切であると話があった。また、自分は「どこを見たい」「どこを見ている」を顔や体の向きで明確にすることで、よりクレーワークよく判定することができる。ゲームを進めていく中で、点差や時間帯などでプレーの質が変化した際に、レフリーがどう判定し、決断していくかという部分では反省が残った。 個人としては、バスケットの戦術に対応したリードの動き、ローテーションをゲームの中で修正することができた。ただ、落ち着いて判定しているように見られてプラスになる場面もある反面、その立ち振る舞いがマイナスになることもある。もっとゲームの熱量に合わせてレフリーとして「プレーへの関わり方」については研究していきたいと感じた。また、プレーの質が変化した際にCCMをもって判定に参加することができなかった。クレーワークは大切にしつつも、どんな場所・時間・相手でも自分の判定に強さを持てる心をさらに磨いていきたい。							
全体の感想							
この度は、全国中学校バスケットボール大会へ派遣していただき有難うございました。私自身、初めての県外派遣で緊張もありましたが、全国レベルのバスケットやチームの熱い想いを肌で感じられたこと、他県の方々との交流はレフリーとして、そしてバスケットを大好きでいる一人としてとても充実した時間を過ごすことができました。 今大会を通して、レフリーとして判定力の向上はもちろんですが、「自分に自信をもつこと」「コミュニケーション」「立ち振る舞い」の3つをこれからの課題にしていきたいと感じました。ただ目の前の現象を判定するだけではなく、コーチ、プレイヤー、TO、コミッショナー、観客、レフリー、そのゲームに関わる全ての人たちと良い時間を共有できるように、ゲームを始めて進めて、終わらせる。そのための判定力、メンタルコントロール、関わり方、バスケットの理解をもっと研究していかなければいけないと痛感しました。また、上級の方々と一緒にコートに立たせていただいたり、反省をしていただく中で、情報を収集するスピードの速さや視野の広さ、気配りなど多くのことを学ばせていただきました。レフリーとしてコートに立つ時だけではなく、Off the courtにいる時の自分自身のあり方も今まで以上に大切にしながら、今回の経験をこれからの審判活動に活かしていきます。 最後になりますが、今大会に向けて長期間ご準備いただき、心温まる受け入れをして下さいました鹿児島県バスケットボール協会の皆様をはじめ、派遣に御配慮いただきました埼玉県バスケットボール協会の皆様や県内審判員の皆様、担当クレーやTO役員、その他大会に携わる全ての皆様に改めて感謝申し上げます。本当に有難うございました。今後より一層精進して参ります。引き続きご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。							